

所属・資格 ドイツ文学科・教授

申請者氏名 森田 悟

研究課題		E.T.A.ホフマン研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	1789年にドイツの隣国フランスで起きた革命はドイツの人々にも新しい時代が訪れるのではないかという期待を高めた。革命による自由・平等の思想がドイツの人々にも新しい時代の始まりを予感させたからである。しかしナポレオンの登場はやがてナポレオンによるドイツ支配という事態を招く。しかしこのことはドイツの人々にドイツ人としての民族意識を高め、統一への期待を生む契機にもなっていく。しかし、民族意識の高まりに伴う統一への期待はナポレオンの敗北、古い支配者の復活とともに打ち砕かれていく。作家ホフマンは当時法律家としても転換期にデマゴグ嫌疑を受けた人々に対する調査・判断を担当する。このようなデマゴグ事件におけるホフマンを研究する。
	研究の結果	具体的にはミュールフェルス事件というデマゴグ事件についてホフマンの法律家としての判断を研究対象に進めているが、当時のドイツのデマゴグ嫌疑者に対する判断は司法機関が行ったというよりもむしろ警察当局の独断が先行したと言えることがわかった。しかし法律家として公正な判断を行うことに多大な努力を払ったホフマンの姿を認めることができた。このようなことを前提にして今後ミュールフェルス事件について考察を進めたい。さらにはデマゴグ嫌疑を受けた体操家ヤーンについての事件も考察の対象として考えてみたい。
	研究の考察・反省	研究資料を調べて行く際、当時のドイツの法律制度や仕組みについての理解が十分でなく、立ち往生しがちである。もう少し基礎的理解を補う必要を感じている。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 立ち往生もあり、論文発表まで至らなかった。次年度(31年度)は論文を書き上げていきたいと思っている。